

台湾生活も残り3日。最も案じられたのが体調不良者の回復具合である。朝に検温をしてみると、3名中2人は平熱だったため朝から全体に合流することに。1名だけは未だやや高め熱があったため、宿舎に残り薬を飲みながら昼まで様子を見ることとした。

その他の者たちは午前中から政治大学附属高校において2日目の交流に突入。最初は2~3人のグループに分かれてのキャンパスツアー。ダンスレッスンのための部屋(壁がガラス張りの部屋)があり驚いていたところ、附属高校の生徒が音楽をかけ、一人ずつ見事なダンスを披露。一高生にもお声がかかり、照れながらも即興ダンスを披露し、場が大いに盛り上がっていた。次に図書館へ。その規模もまた驚くべきもの。大きさからいうと日本の小さな公立の図書館と同規模程度。中階段で繋がる2フロアの図書館で、広い自修(自習ではない)室もあった。また、教員専用エリアもある。見学先でその都度集合写真を撮り、一回りしたところで見学終了。

次の時間は数学の授業。ホストスチューデントたちのHR教室で受講した。テーマは「実係数多項式」。スマートフォンの「Desmos」というグラフ作成ソフトを使い授業を進めていた。本校の生徒も周りの生徒とコミュニケーションをとりながら積極的に授業に参加していた。数学の先生は若く、とても生徒とフレンドリーな雰囲気。台湾の授業は日本とは違い飲食、スマホOK。通訳の黄さんによれば、これが台湾では当たり前とか。それでも大学受験は日本以上に厳しく、しかし難関大に合格できれば将来は安泰ということのようである。

そのあとは、ホールに戻りプレゼンの準備。最後の発表を成功させるべく、直前まで原稿チェックなどの準備に余念がない様子。

そしてほどなくランチタイム。本日のメニューはピザ。附属高校の生徒と一緒に立食の形でそれぞれが何種類ものピザをつまんで食べていた。宅配ピザは台湾でも大人気らしく、値段を聞くと大きいサイズが1枚2,000円程度と、日本とさほど変わらないようである。飲み物はコーラとスプライト。日本ではすっかりシェアを失ったスプラトが、台湾ではNo.1であるのも面白い。附属高校の生徒があまりにもハイテンションなもので、体調が万全でない生徒にとっては、息つく間もないランチタイムであったかもしれない。

皆の昼食が終わる頃、最後のプレゼンには何としても参加したいという強い意思を受けて、残る1名と報告者もタクシーで高校へ。最後の交流プログラムである、双方のプレゼンの部へ突入した。こちらからは6つのグループがそれぞれ今回のフィールドワークの成果を発表、台湾の生徒たちは、台湾の食・観光スポット・遊びを紹介するプレゼンをお返ししてくれた。

台湾の生徒たちのプレゼンを聞く態度は、日本では想像がつかないほどの自由さ。さすが個人主義の国である。型にはまるのがいいか悪いかは別として、本校の生徒たちの他者の話を聞く態度は例外的に立派なのだなど実感させられる。しかしそんな台湾の生徒たちにも悪気はないのであろう。最後は雨に濡れながらバス停まで押しかけ、別れを惜しんでくれていたのだから。

そんな聞き手の様子に面くらいながらも、本校の生徒たちのプレゼンは大変すばらしいものであった。どれもがかって指導を担当したSGH一期生たちの、3年次における英語プレゼンの質を遥かに上回るクオリティを有していた。何より素晴らしいのが、それをほぼ自らが持てる力とモチベーションだけで成し遂げたことである。特に本当であればまだまだ宿舎で休養が必要であろうにも関わらず、ぶっつけ本番で堂々たるプレゼンを披露してくれた組が残る体力を振り絞るように行った発表をみていると、熱いものがこみあげてきた。

残念ながら大事をとってプレゼン終了後に体調不良組3名は速やかに宿舎に戻り再度休養をとることになった。満足のいく交流ができなかったことは3人にとって不本意であったかもしれないが、この先の人生でも待ち構えている様々な難関をクリアしていけるようなタフさを身につけられたはずである。そして彼らを気遣い、最後は即興の出し物(ダンス+合唱)を彼らの分まで完遂してくる残りのメンバー。二週間を経て12人はしっかりと一つのチームになることができた。

Youtuber 数学教師による授業



ピザパーティ



体調不良コンピによる渾身のプレゼン



最後の記念撮影

